

酒田・飽海大豆情報

第2号

令和6年5月28日

播種適期は6/10まで!

酒田農業技術普及課
TEL 22-6521
FAX 22-6522

病害虫防除と播種後の除草剤を!

水稻の移植が終わり、大豆の播種作業が進んでいます。ネキリムシ類の防除と播種直後の土壌処理除草剤散布をしっかりと行い、安定した収量を確保しましょう。

I ネキリムシ類の被害に注意!

飛来した成虫は広葉雑草などに産卵するため圃場周辺の除草を行きましょう。播種時または本葉2葉期までに薬剤防除を実施しましょう。(ただし、播種前の種子の塗沫処理に、クルーザーMAXXやクルーザーFS30を使用している場合は、適用害虫となっています。)

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
カルホス微粒剤 F	6kg/10a	播種時	土壌表面散布 土壌混和处理	2回以内 (インキサチオンを含む薬剤の総使用回数は2回以内)
カルホス粉剤	4kg/10a	播種時～ 本葉2葉期	土壌表面散布	
ネキリエース K	3kg/10a	播種時～ 本葉2葉期	土壌表面株元処理	

II 播種直後の全面土壌散布除草剤

全面土壌散布除草剤は、播種直後～3日以内に散布しましょう。なお、圃場が乾燥しすぎると効果が劣ることから、登録の範囲内で希釈水量を増やし、ゆっくり散布作業を行きましょう。

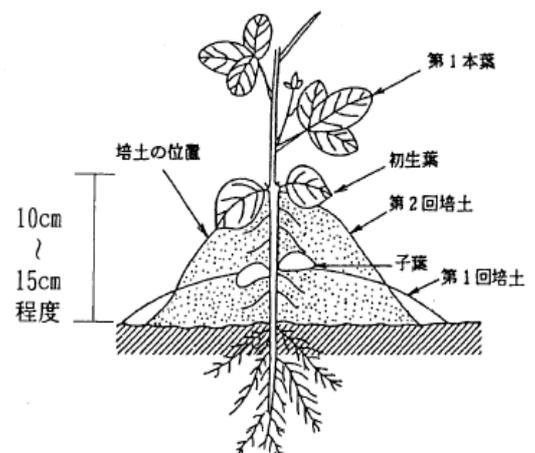
III 中耕培土

中耕培土は、①雑草の抑制、②主茎に不定根が発生し、根域拡大、③主茎の支持による倒伏防止、④畦間が排水溝となり、停滞水を排除、といった役目があり、実施時期の目安は下記のとおりです。

■1回目の培土(3葉期)⇒6月中旬～下旬

(子葉まで土を寄せるが、株元が凹状になると水が停滞し、立枯性病害の発生原因になるため凸状にする)

■2回目の培土(6～7葉期)⇒7月中旬



IV 発生草種に応じた除草剤の使用

大豆畑の難防除雑草
この雑草に注意!



イヌホオズキ



ホソアオゲイトウ



ツユクサ

① 広葉雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩) (1回)	一年生雑草(イネ科を除く)	100 ～ 150ml	100ℓ	大豆の2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期、収穫45日前まで)	・雑草茎葉散布または全面散布 ・イネ科雑草には効果がない ・イヌホオズキ・ツユクサ・シロザには効果が低い
		300 ～ 500ml		大豆の生育期(雑草の生育初期～6葉期、収穫45日前まで)	・畦間雑草茎葉散布
ロロックス ※非選択性 (1回)	一年生雑草	100 ～ 200g	70～150ℓ	本葉3葉期以降、雑草生育期(収穫30日前まで)	・雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処理)、大豆にかからないよう専用ノズルで散布 ※薬害注意 ・イネ科雑草・ツユクサには効果が低い
バスタ液剤 ※非選択性 (3回以内)		300 ～ 500ml		100～150ℓ	収穫28日前まで(株間処理:本葉5葉期以降雑草生育期、畦間処理:雑草生育期)

➡ 非選択性除草剤は大豆の葉にかかると葉の褐変や枯死などの薬害が発生します。広葉雑草に効果のある除草剤の中には、大豆にかからないように畦間・株間に散布するものがあります。散布者が責任を持って確かめましょう。

☆ 散布時に雑草が大きいと残草が発生しやすくなります。
残草は、種子が実る前に圃場外へ排出しましょう。



② イネ科雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
ワンサイドP 乳剤(1回)	一年生イネ科雑草	75～ 100ml	50～100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草の3～5葉期、収穫60日前まで)	・雑草茎葉散布又は全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・遅効性で、イネ科雑草の枯死まで15～20日を要する
ポルト フロアブル (2回以内)		200～ 300ml		50～100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期、収穫30日前まで)

☆ 水稻など、周辺の作物へ飛散しないよう風向・風速に十分に留意して散布しましょう。